

まち活講演会

「住民自治による地域再生」 ～「やねだん」に学ぶまちづくり～

- ◆ 講師 豊重哲郎氏（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷自治公民館長）
- ◆ 日時 2015年12月4日（金） 18時30分～20時50分
- ◆ 場所 女川町役場2階 第2会議室

【講演の概要】

（冒頭に「やねだん」を紹介するテレビ映像等を視聴）

【地域づくりの哲学】

地域づくりにおいては、まずは半径 10m、100m以内の人の顔を覚えて、フルネームで呼び合うこと。地域づくりにはこれしかないと思う。

人徳が無い人には人はついてこないというのが、僕の哲学である。では、人徳とは何か。相手の心が読める洞察力、黒子でいいけど時には先導する力があること、数字で財務が語れること、これを人徳という。そして、最後は自分の言葉で語ること。論で語るよりも、体験してその結果を自分のものにして語ることが必要である。

20年前、55歳の時に公民館長になったが、私がなぜ本気になったか。

人は、引き出されると、本気になる。やねだんの公民館長は元々引き受け手がなかったので輪番制だった。引き出されるのではないため、本気になるはずはない。そんな中で、私は引き出された。なぜか。

まず1つは、バレーの指導を52歳までやっていた時の熱血ぶりを見た教え子やその家族から、哲郎に任せればやねだんも子どもを育てる地域にできるという声が上がったこと。

2つ目は、事業での借金を完済した哲郎に任せようという声が上がったこと。借金をしていると、財務にも強くなる。1円でも数が集まれば大変な重みがある。地域づくりも1人ではなく、300人もいればものすごい力になる。このことを数字で考えて、組み立てることが出来るようになっていた。任せられると、相手が納得するように組み立てていかなければならない。組織や財務など企業感覚で組み立てていかなければならない。それが僕のやり方である。

3つ目は、私の人脈に期待してくれた人がいたことである。「ありがとう」という感謝の気持ちがないと、たいていの地域づくりは、仕掛け人が残るだけで、人も形も残らない。だから、私はうなぎ事業をしていた時から感謝の気持ちをずっと持ち続けてやってきた。

【地域づくりの最初は土台づくりから】

地域づくりは、土台づくりがポイントである。単発イベントやポイント単位でやってもなかなか続かない。ポ

ランティアだけでやっても絶対続かない。

地域づくりのための土台づくりには4つのテーマがある。

1つ目は、地域に補欠はいない。みんなの出番は必ず作れるということ。

2つ目は、リーダーは使われやすい人に変わらなければダメ。「俺についてこい」というリーダーでは、人は動かない。だから、私は常に使われ役に徹してきた。ただし、時には、これだけは譲れない、やろうという信頼のおけるコーディネーターにならないと、使われっぱなしだと、後継者が育たない。時には威厳も発揮できるようなコーディネーターにならないといけない。

3つ目は、どうしても仕掛け人であるリーダーは必要。リーダーは感動と感謝で人の心の揺さぶることが重要。損得の揺さぶりあいではない。

4つ目は企業会計の知識。地域づくりは個人戦ではなく、総力戦である。リーダーが変われば元に戻ってしまうとなると、後継者にも譲れない。企業も人、地域も人であり、地域づくりにも事業をやっていく意識が必要であると考えている。

土台づくりのためには、まずはボーダーライン以下の8割の人たちがどんな人たちなのかの分析が必要。この8割には無関心な人、反目する人、文句を言う人、足を引っ張る人が必ずいる。これらの人を如何に本気にしていくか。必要なのは、「目配り」「気配り」「心配り」。それができなかつたら、反目している人たちを動かすことはできない。動かすためには、フルネームで呼ぶこと。勇気はあるが、人は名前と呼ばれと必ず振り返ってくれる。

また、楽しくなければ地域づくりには絶対参加しない。会って話すだけの「会話」ではダメ。愉快的な話題（「快話」）が企画の中に入ってこない、ダメである。愉快的話にするには、何を話題にしないといけないのか。ここに女川流のアイデアを考えてほしい。

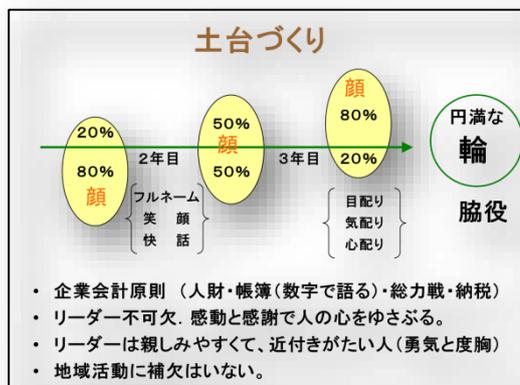
【地域の課題発見は住民を把握することから】

私は20年間、やねだんの集落人口の分布図を作って、1人1人を把握し、それぞれの10年後のポジションを考えながら、地域の政策を考えてきた。

やねだんの永遠のテーマは、集落機能を維持していくこと。300人のやねだん集落は、このまま高齢者が没していくと必ず落ち込んでいく。機能を維持するためには、若者を増やすこと。14歳くらいまでの子どもの転入や、生産性のある年齢層のIターンやUターンをやっていかないと、集落は必ず衰退する。

従って、少子化対策は重要。しかし案外と難しいから皆さんはやらない。絶対、若者政策は考えないといけない。皆さんにも考えてほしいのは、女川において少子化対策をどうするか。やねだんがやってきたのは、空き家を整備して、ここに若手アーティスト（芸術家）を呼んで、定住してもらうこと。今、9人が在住している。このようなことを、集落機能の維持として、是非実践してほしい。

そして福祉と子どもをセットにした集落作りを考えてほしい。そうすると、話の最初にあった「人集め」の一番難しいところに戻ってくるが、孫が叫べば、じいちゃん、ばあちゃんは、必ず動く。動くだけではダメなので、



仕掛けるときには必ず、図書館役（人生の生き字引）として、じいちゃん、ばあちゃんに経験をしゃべらせる。過去の体験者に出番を与えること。必ず生きがいに感じて、本気になって自分から動いてくれる。

【やねだんの組織と取組】

やねだんでは、事業をやっていく上で、6つの部を組織している。65歳以上が必ず入る「高齢者部」、0歳児から中学生の親子までの「青少年育成部」、その他の「婦人部・壮年部」。地域住民はどこかに所属するようになっていく。その他、文化教育的な村づくりを永遠にやるために「文化部」、牛豚の悪臭を撲滅するための「畜産部」。ここで土着菌の微生物でにおいを消すことに成功して、土着菌の販売もしている。また、コミュニティビジネスとして、焼酎「やねだん」も販売しており、通信販売が7割を占める。

それぞれの部は独立採算性として、やねだんからは年間30万円を支給している。館長は70万円（元々3万円だったが、それでは後継者がいない。ボランティアではない、ということを引きちんと示す為にもこの金額）、副館長・会計はそれぞれ10万円の手当てがあるので、計270万円の経費が自主財源から支払われている。この費用があると、集落は会費0円でも運営できる。ここまでくるのに5年かかった。

平成8年に館長を引き受けた時の財源はほとんどなかった。これでは何もできないと感じた。その時の帳簿を見た時から、私は財務について考えて、今がある。

地域づくりは、最初は小さくコンパクトに、直ぐにあふれるようにしてほしい。最初から大きなことを考えたら、万一の時は仕掛け人だけの負担になる。あわてない、急がない、近道しない。必ずコンパクトにすれば、伝わっていく可能性の方が大である。

【やねだんの取組からのヒント】

今日、町内の色々な箇所で震災からその後の復興の説明を受けたが、1か所だけでもいいから、地域の人だけの力で作った「館」が欲しいと思った。私なら絶対作る。そこに、子どもや老人が自由に集えるようにする。やねだんの集落は地域の高齢者の技術などを活かして、みんな手づくり。たぶんこの地域でも、高齢者にいろいろな技術を持った人がいるだろう。「自分たちだけでできた」というムードづくりを是非、やねだんを参考してやってほしい。

やねだんでは、土着菌を製造し家畜に食べさせたところ臭いが軽減し、土着菌を畑にまくと作物の育成が大きく違った。土づくりの基本は微生物。この地でも土着菌は作れる。土着菌を使って無化学無農薬で安心安全な農産物を作るということを是非やってほしい。

やねだんでなぜ唐辛子が生産し、食べられるようになったか。1つはメタボ効果等による日本での市場性。もう1つは、とうがらしを1人4kg食べる韓国でも高齢化により唐辛子の生産能力が下がっていること。生では検疫等で輸出は難しいが、パウダーにすれば韓国での市場可能性もある。女川でも、海産分野で何かパウダーにできないかなとさっきから考えているところである。

介護・防犯も真剣に考えた方がよいテーマである。1人暮らしの高齢者が緊急時に使える警報装置を、やねだんでは、還元投資としてやっている。

【地域を変える「子ども」】

高校生クラブが20年間、記念日のメッセージ放送を続けている。高校生が代わる代わる話題性のあ

るメッセージを発信すると、その家族・親戚がついてきてくれる。1人の発信者でも10人が束になれば、すごい力になる。

また、寺子屋も20年間続けてきた。寺子屋では、基礎学力で困ったり躓いているところを、先生が公民館に来て見つけてあげ、子どもの分からないところの出口を教えてあげている。このような寺子屋が全国で展開できないかと言いつけているが、なかなか実現できない。女川では是非やっていただきたい。このような場があれば必ず子ども達は自主参加する。学べる喜びを感じてもらえる教育が必要。

また、名前を覚えてもらうために子ども達の通学の際に「おはよう声掛け運動」を2か月間やった。これが半径100mの名前を覚える地域づくりでもある。

やねだんは、若い世代がどんどんUターンしてくる。そのポイントは、やはり、人、教育、安心安全、環境整備であると思っている。

【まとめ】

私はやはり人徳が基本だと思う。人の心が分かり、洞察力もあって、天狗ではない。聞く耳を持つ。素直な子ども、人が報われる社会を。人徳として優れた社会のためには、財産は人なのである。

2つ目は、フォロー。任せられると行き過ぎる、やり過ぎる。無関心な人にも3歩進んで2歩下がることを繰り返していくと、いつの間にか歩調もあうようになるというフォローを絶対やってほしい。

3つ目は、土台づくりでは、あわてない、急ぐな、近道するな。女川にベストな土台をつくるためには、分析が先であるということを私はここで言いたい。

4つ目は、リーダーはそれ相当の犠牲がある。時間的な犠牲、苦情処理の対応等。あとは我慢と忍耐がないと、自分の政策が出しきれない。10年くらい任せられる人を引き出すことができれば、地域が変わっていくのではないだろうか

みんなヒーローになりたい。でも、私はバレーをずっとやってきて、補欠の親の気持ちがよくわかる。地域づくりも人が集まらない方法を考えたら、人が集まるようになった。私は一生、黒子でいいと思ってやってきた。

後は、地域もパートナーも感動と感謝。これがないと、心は本気にならない。併せて、目配り、気配り、心配り。情熱のある人には必ず人はついてくる、ということを信念としてきた。教育とは、変わる事そのことが教育と私は常に教えてきたし、自分でも変わる事、そのことを今日も学んで帰りたいと思う。

最後に「体力」「忍耐力」「経済力」「肉体力」。このいずれが欠けてもリーダーとしては失格と私は思う。どうぞみなさん、笑顔で、一度きりの人生だから、社会に貢献することを目標にして、この町の3年、5年後、楽しい地域の再生モデルづくりに尽力してください。やねだんからもエールを送ります。



【質疑応答】

Q わくわく運動遊園（※）を作る際の技術は高齢者から学ぶということだが、資材や重機はどのように調達されたのか？

A 全部、やねだんの住民からの提供。やねだんには葬儀屋がないくらいで、様々な技術者と機材がある。みんな集落内で賄っている。

Q 高齢者用の緊急警報装置はどのような仕組みになっているのか

A 九電の許可をもらい、電柱に赤色灯とベルをつけている。田舎なので、押されればどこの誰が押したか、分かる。

Q 引き際はどうか考えられているのか

A やねだんは、「ゆりかご」から「墓場」までの人が混住している。公民館の改修を行っているところであるが、改修の目的は、年間の視察者の増加に対応するため等その他、集落の高齢者の葬儀の場として、集落葬を行えるようにという考えもある。集落葬が軌道に乗って、唐辛子が動き出した時点で、今 50 歳の方に引き継ごうと思っている。20 年間の在任期間は、少し長すぎだったかと思っている。

（※）わくわく運動遊園

「やねだん」の地区内に、住民交流の場として整備された、心も体もわくわくする公園。

住民から丸太や角材、緑化樹等の提供を受け、大工や左官、造園等の経験者を中心に、住民主体で整備された。健康遊具や四阿等も設置されている。